

令和3年度 外部評価委員会 概要

1 令和3年度の実施状況

(1) 日時 令和4年2月28日(月) 13:30~16:00

(2) 長野県林業総合センター 小研修室 (全委員はオンライン出席)

(3) 出席委員 委員長 岡野 哲郎

岡野 哲郎 (信州大学)	島田 保彦 (指導林家)
谷澤 恭子 (中部森林管理局)	宮尾 淳一 (農村工業研究所)
高田 幸生 (県森連代表理事専務)	丸山 弘子 (建築士)
宮崎 正毅 (県木連理事長)	福田 久 (元農業改良普及協会常務)

武田孝志委員、高野忠房委員欠席

2 協議内容

- ・ 各部の取り組み状況の概要及び課題の事例について
- ・ 意見交換
- ・ 委員長総括

(1) 各部の取り組み状況の概要及び課題の事例について

指導部 報告内容「長野県林業士の育成」

委員の意見

林業士入門講座における幅広い取り組みは高く評価できる。
人口減少社会の中、地域で活躍する人材の育成方法として良好な手法。
今後は、林業以外で森林に関わる人へのアプローチを意識して欲しい。
例えば、林業技術者だけでなく、木育なども意識して欲しい。
こうした取り組みがPRされていないことは問題なので、積極的な広報を。

育林部 報告内容「機械地拵えによる再造林コストの低減」

委員の意見

機械地拵えによる低コスト化への取り組みは評価できる。
現場まで積極的に普及してほしい。
関係者への周知は進めているとのことであるが、林業の振興には欠かせない重要な研究である事を意識し、さらなる積極的なPRを進めて欲しい

特産部 報告内容「林地残材を活かした身近な精油生産」

委員の意見

精油は、林業への関心を高めるものであり、高く評価できる。
特に、廃液を含めて最後の一滴まで有効に活用しようとする姿勢は良い。
但し、精油の規格及び安定生産には課題があると思われるので、安定的な規格の検討に向けてさらに努力をして欲しい。場合によっては樹種の絞り込みも。
また、製材端材の利活用や製造コストの低減など、省エネ対策も検討して欲しい。

木材部 報告内容「信州カラマツ 201 材の開発」

委員の意見

現場需要に対応した様々な利用が進められている点の評価。

長伐期大径材時代を迎える中で、2×10 材のような製品開発も良いが、無垢材を求める声にも対応できるように丸太梁や太鼓梁などの木材利用についても、他県ではほとんど開発されていないこともあるので、検討して欲しい。

(2) 意見交換

業務内容を紹介頂いた中身をみると、少ない人数でかつ少ない予算の中、非常によく仕事をこなしている。

価値の高い研究を進めて頂いているが、研究財源の確保が出来ているのか心配

プロ集団として広く評価してもらえるような配慮を望む。少なくとも職員が少なすぎる。

成果が出てきていることは理解できるものの、残念ながら県民へのアピールが不足していると思われる。

これからも研究を着実に推進するとともに、林業に明るい未来が描けるような多岐にわたる研究を進め、林業関係者だけでなく県民に広くアピールできる成果を出すことにも配慮して取り組んで欲しい。

(3) 委員長総括

多種多様な研究を少ない職員でよく対応し遂行している。

気候変動や生物多様性の問題など、森林林業を取り巻く国民の期待は高まっている。

林業総合センターでは、昨年度に基本計画が策定され、めざす方向性が明確になった。

今年度の報告を聞かせて頂く中で、長野県の歴史文化をキーワードに長期にわたる重要な研究をすすめており、地域の特色を明確に打ち出している。

これからも着実な研究推進をお願いしたい。

ただ、現実には予算が少ないのではと感じている。積極的なPRを進めることで予算獲得につなげて欲しい。場合によっては企業とのコラボレーションを行うことで研究費を獲得するようなことも考えて欲しい。